

## 高度研究人材活用促進事業課題追跡調査結果について

民間企業の研究開発等の活性化・高度化を図るため、ポスドクを雇用し、その専門的能力・知識を積極的に活用する企業等を支援するとともに、ポスドクから民間企業へのキャリアパス形成促進を目的とする「高度研究人材活用促進事業」を平成21年度に実施した。

本調査の目的は、同事業で採択された研究開発課題を対象に、本事業終了後1年が経過したことをうけて、その後の成果の発展状況について調査を行ったので報告する。

### 1. 調査概要

#### (1) 対象・方法

平成21～22年度に本事業で採択され逐次終了した25課題を対象とし、企業研究者25人、ポスドク28人に調査票を郵送及びE-mailにて送付。

#### (2) 調査期間 平成25年1～2月

#### (3) 回収状況 企業研究者25名、調査数25名、回収数22名（回収率88.0%）

ポスドク 30名、調査数28名、回収数19名（回収率67.9%）

※ポスドク未回答（11名）の内訳

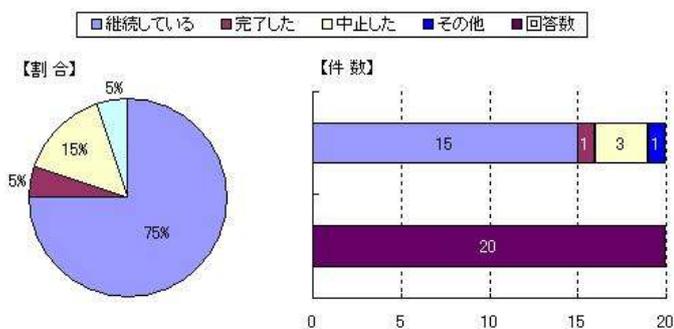
- ・郵送先もE-mailも確認できず 2名
- ・郵送先が確認できず 4名
- ・郵送は届いていると思われるがメール届かずで未回答 1名
- ・郵送、メールとも届いたと思われるが未回答 4名

### 2. 調査結果

#### (1) 研究課題の状況

本事業の研究課題について、現在の状況を調査したところ、22課題中20の課題について回答があった。継続中との回答が最も多く75%（15件）であった。

図1 研究課題現在の状況

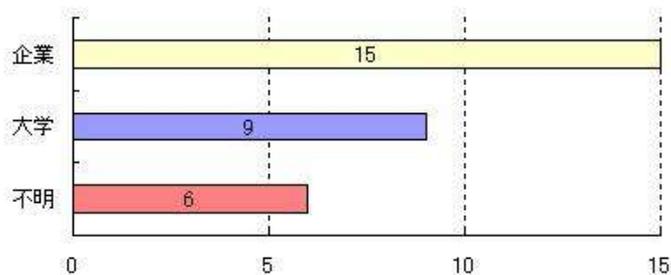


回答内容から、本事業を通じて、製品化やサービス展開に至った課題3件を確認することができた。

## (2) ポスドクの現在の所属先

ポスドクの現在の所属先は、本事業で雇用された企業に継続雇用されているポスドク 33% (10 名)、他の企業に雇用もしくは起業等で独立したポスドクが 17% (5 名) で、あわせて 50% (15 名) が企業で活動している。大学に移ったポスドクのうちの 3 名は、企業に雇用されていたものが、本人の希望で大学に戻ったものである。

図 2 ポスドクの現在の所属先



## (3) 現在の職種と雇用形態

回答のあった 18 名の現在の職種は 9 割が研究職であった。

また、企業に雇用された 12 名のうち 8 名は定年制で、4 名は任期制であった。さらに、大学については 6 名のうち 1 名が定年制で、5 名が任期制であった。

図 3 現在の職種

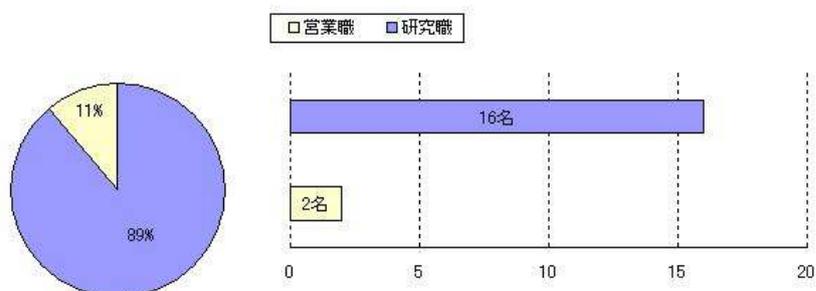
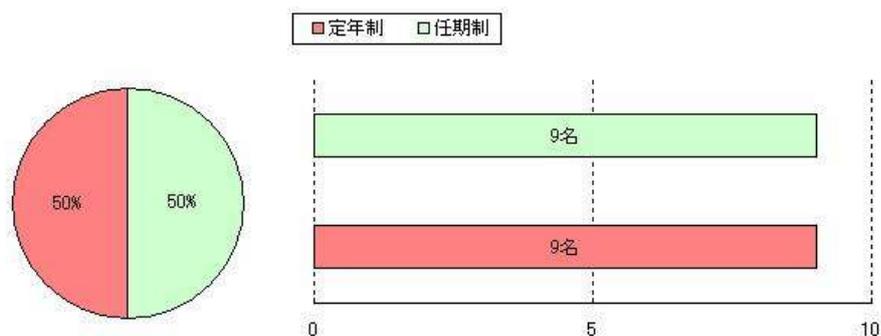


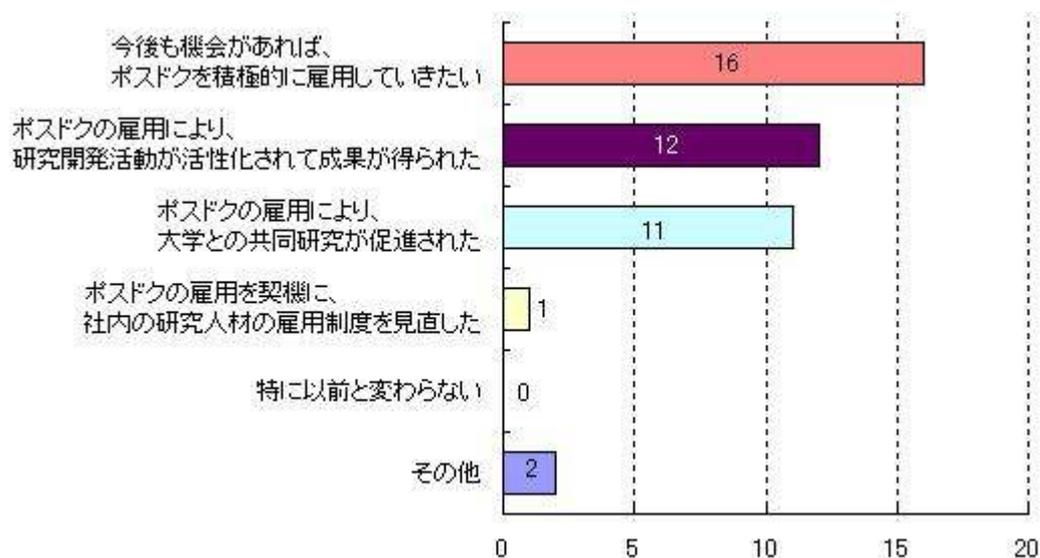
図 4 現在の雇用形態



#### (4) ポスドク雇用についての企業側の認識

企業研究者からは、ポストドクの専門的能力・知識を活用することにより研究開発を進める上で良かったとの回答が 11 件寄せられた。また、今後も機会があればポストドクを積極的に雇用していきたいとの回答があった。

図 5 ポスドクの雇用に関する企業側の認識

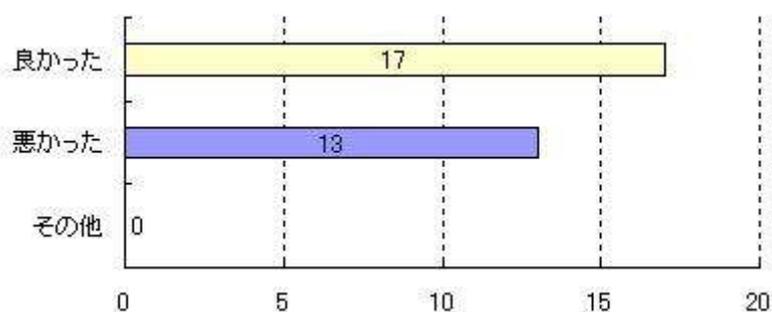


自由記入欄への回答の中には、ポストドクの高い能力により研究開発が加速した（7 件）、今後も機会があれば採用したい（3 件）など、本事業を評価する意見が多かった。その一方で、企業が求める研究人材イメージとのギャップがあった（6 件）との回答もあり求職者と求人者間のマッチングの難しも伺えた。

### 3. 本事業に対する意見総括

#### (1) 本事業に対する企業研究者の意見

図 6 本事業に対する意見（企業研究者、重複回答）

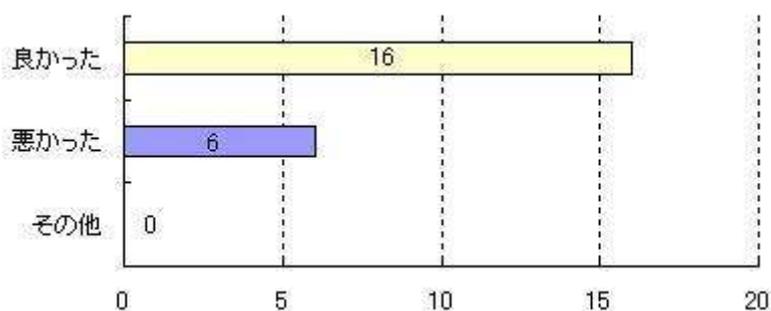


本事業の良かった点（自由記入）を調査したところ 17 件の回答があった。主な内容は、研究開発を進める上で良かったが 11 件、社内の認識の変化が 3 件であった。

本事業の悪かった点（自由記入）を調査したところ 13 件の回答があった。主な内容は、雇用期間が短い 7 件、ポストク的能力や考えとのミスマッチ 3 件であった。

## （2）本事業に対するポストクの意見

図 7 本事業に対する意見（ポストク、重複回答）



本事業の良かった点（自由記入）を調査したところ 16 件の回答があった。主な内容は、民間企業の研究開発を経験でき視野が広まった等が 11 件、就職・起業に結び付いた等が 4 件である。本事業の悪かった点（自由記入）を調査したところ 6 件の回答があった。主な内容は、期間が短い 4 件、企業の考えとミスマッチが 2 件である。

また、キャリアパスの形成に関して、17 件の回答があった。自身の専門知識が、現場の即戦力として役に立つことを実感できた、学部生の頃から企業経験の機会を設けることの有効性を認識した、キャリアパスの選択肢として幅広い視野を持つことも重要である、等の意見が寄せられた。

## 4. まとめ

本事業により、企業はポストクの専門的能力・知識を活用することにより研究開発を進める上で良かったとの回答が 11 件あったことから、民間企業の研究開発の活性化・高度化が図れたといえる。そのため企業サイドでは、今後も機会があればポストクを積極的に雇用していきたいとしている。一方ポストクからは民間企業の研究開発を経験でき視野が広まった等の回答が 11 件、就職や起業に結び付いた等の回答が 4 件あり、ポストクにとってもキャリアパス形成を図るきっかけになったことから、今後もこのような事業を継続して実施して欲しいとの意見が多く見られた。

ただし、ポストクの思いと企業の考えがミスマッチで十分な効果をあげることが出来なかったり、引き続き企業に継続雇用されたポストクが大学に戻るケースもみられた。

そのため、事前のマッチング段階で、企業とポストク双方が研究開発テーマについてより深く認識・理解し合うことが必要である。また、1 年という支援期間は短いとの指摘もあり、もう少し長期の支援期間を考慮することも必要である。

以上